

**漢方製剤の記載を含む
診療ガイドライン
(KCPG)
Appendix 2012**

2012.12.31

**日本東洋医学会 EBM 委員会
エビデンスレポート/診療ガイドライン・
タスクフォース (ER/CPG-TF)**

**Clinical Practice Guidelines
Containing Kampo Products in Japan
(KCPG)
Appendix 2012**

31 Dec 2012

**Task Force for Evidence Report/
Clinical Practice Guidelines
(ER/CPG-TF)
Committee for EBM
The Japan Society for Oriental Medicine (JSOM)**

version の履歴

- 2012.12.31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン Appendix 2012
- 2011.10.1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン Appendix 2011
- 2010. 6. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2010
- 2009. 6. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2009
- 2008. 4. 1 漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン (中間報告 2007) ver1.1
- 2007. 6.15 漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン (中間報告 2007)

なお、漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン (中間報告 2007) ver1.1 の内容は、以下に詳しい。

Motoo Y, Arai I, Hyodo I, Tsutani K. Current status of Kampo (Japanese herbal) medicines in Japanese clinical practice guidelines. *Complementary Therapies in Medicine* 2009; 17: 147-54.

本 Appendix について

日本東洋医学会 EBM 委員会 エビデンスレポート/診療ガイドライン タスクフォース (ER/CPG-TF) では、わが国の診療ガイドラインの中から、漢方製剤に関する記載を調査し、「漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン」(KCPG)として日本東洋医学会のホームページに公開している。現在までの最新版は2010年3月31日に調査を行い2010年6月1日に公開したKCPG 2010である。その後、2011年10月1日に公開したKCPG Appendix 2011においては、2010年4月1日から2011年3月31日までの間に東邦大学医学メディアセンターの「診療ガイドラインリスト」に新たに収録された109件から、56件を調査対象として選び、その中の漢方製剤に関する記載、つまり新規掲載、継続掲載部分のみの13件を公開した。

本Appendix 2012は、KCPG Appendix 2011以後の1年間の動向について2012年3月31日に調査を行い、2011年4月1日から2012年3月31日までの間に東邦大学医学メディアセンターの「診療ガイドラインリスト」に新たに収録された107件から、58件を調査対象として選び、その中の漢方製剤に関する記載を調査し、タイプ別に分類したものである。調査方法の詳細はKCPG 2010を参照されたい。

KCPG Appendix 2011からの追加・変更は以下の通りである。

- ・新規に漢方製剤の記載が掲載された CPG

- (1) 蕁麻疹診療ガイドライン、(2) 前立腺肥大症診療ガイドライン、(3) 産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2011、(4) 頸椎後縦靭帯骨化症診療ガイドライン 2011、(5) 慢性痒疹診療ガイドライン、(6) 汎発性皮膚そう痒症診療ガイドライン、(7) 小児・思春期糖尿病管理の手引き 改訂第3版、(8) パーキンソン病治療ガイドライン 2011、(9) がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 2011年版、(10) 睡眠障害診療ガイド、(11) 摂食障害治療ガイドライン、(12) 食物アレルギーの診療の手引き 2011

- ・漢方製剤に関する記載内容が変更された CPG

- (1) 線維筋痛症診療ガイドライン 2011、(2) 特発性間質性肺炎診断と治療の手引き

- ・診療ガイドラインがバージョンアップされたが、漢方製剤に関する記載には変更がなかった CPG

- (1) 科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン ①治療編 2011年版、(2) 性感染症 診断・治療ガイドライン 2011

- ・従来は漢方製剤の記載があったが、CPGのバージョンアップに伴い漢方製剤の記載が削除された CPG

- (1) 科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン [改訂第2版]、(2) ペインクリニック治療指針 改訂第2版

以上から、本 version では以下の通りとなった。

date	2007.6.15	2008.4.1	2009.6.1	2010.6.1	2011.10.1	2012.12.31
タイトル	漢方製剤の記載を含む 日本国内発行の 診療ガイドライン (中間報告 2007)	漢方製剤の記載を含む 日本国内発行の 診療ガイドライン (中間報告 2007) ver.1.1	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン 2009	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン 2010	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) Appendix 2011	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) Appendix 2012
調査日	2007.3.31	2007.3.31	2008.12.31	2010.3.31	2011.3.31	2012.3.31
東邦大学医学メディアセンター website	収録件数 570	573	852	1008	1117 ²⁾	1224 ²⁾
	調査対象CPG 570 ¹⁾	346	455	528	584 ²⁾	642 ²⁾
	調査対象中の漢方CPG 47 ¹⁾ (8.2%)	35 (10.1%)	43 (9.5%)	51 (9.7%)	58 ²⁾ (9.9%)	70 ²⁾ (10.9%)
その他のCPG	2 ¹⁾	1	1	1	1 ²⁾	1 ²⁾
漢方CPG	タイプAの個数 7 ¹⁾	6	7	8	11 ²⁾	18 ²⁾
	タイプBの個数 13 ¹⁾	13	16	19	21 ²⁾	24 ²⁾
	タイプCの個数 29 ¹⁾	17	21	25	27 ²⁾	29 ²⁾

タイプA: 引用論文が存在し、エビデンスと推奨のグレーディングがあり、その記載を含むもの
タイプB: 引用論文が存在するが、エビデンスグレードと推奨のグレーディングのないもの
タイプC: 引用論文も存在せず、エビデンスグレードと推奨のグレーディングのないもの

1) 東邦大学医学メディアセンターwebsite収録の「診療ガイドライン」全てから漢方CPGを調査した。一方、2008年以後は、東邦大学医学メディアセンターwebsite収録の「診療ガイドライン」のうち、1) 外国のCPGとその翻訳版、2) 医療倫理に関するガイドライン、3) 動物実験や治療など研究に関するガイドライン、4) すでに改訂版が作成されているCPGの旧バージョン、5) 一般向けなど、CPGのダイジェスト・バージョン、6) その他、臨床診療を目的としないガイドライン、を除外したものの中から漢方CPGを調査した。そのため、2007年の報告と2008年以後の報告とでは、調査母集団が異なる。

2) KCPG Appendix 2011は、2010.4.1-2011.3.31の新規掲載、継続掲載部分のみを、KCPG Appendix 2012は、2011.4.1-2012.3.31の新規掲載、継続掲載部分のみを収録しているが、ここでは、各々 2011.3.31時点、2012.3.31時点での状況を示している。

社団法人 日本東洋医学会
第3期 (2009.6-)
EBM 委員会*
エビデンスレポート/診療ガイドライン・タスクフォース (ER/CPG-TF)

班長 chair

岡部哲郎 東京大学大学院医学系研究科 漢方生体防御機能学講座

班員 member (10名, 50音順)

北川正路 東京慈恵会医科大学 学術情報センター 図書館

後山尚久 大阪医科大学 健康科学クリニック

小暮敏明 社会保険 群馬中央総合病院 和漢診療科

後藤博三 北聖病院漢方内科

詫間浩樹 慶應義塾大学薬学部 社会薬学講座

鶴岡浩樹 つるかめ診療所

自治医科大学地域医療学センター 地域医療学部門

中田英之 財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院 漢方内科・健康医学センター

藤澤道夫 東京大学 保健・健康推進本部

星野恵津夫 癌研有明病院 消化器内科

元雄良治 金沢医科大学 腫瘍内科学部門

オブザーバー observer (2名, 50音順)

新井一郎 日本漢方生薬製剤協会 医療用製剤会議 有用性研究部会

大谷 裕 東邦大学 医学メディアセンター

EBM 特別委員会委員長

津谷喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学

(2005年5月20日-2012年6月29日)

EBM 委員会委員長*

津谷喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学

(2012年6月29日-)

*2012年度より以前のEBM特別委員会が常設委員会となり、この名称となった。